

第2学年 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時：平成 15 年 9 月 10 日（水）5 校時
 場 所：宮古市立津軽石中学校 2 年 B 組教室
 対 象：同校 2 年 B 組 23 名
 指導者：同校 教諭 大久保 浩 一

- 1 単元名 「さまざまな面から見た日本」 ※教科書：東京書籍「新しい社会 地理」
 2 小単元名 「日本の自然環境」
 3 単元と小単元について

単元は、下表のように5つの小単元から構成されている。世界的視野から日本を一つの地域として追究することによって、また、日本全体の視野から大まかな国内の地域差を追究することによって、わが国の特色をとらえさせるとともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を身につけさせることをねらいとしている。

本小単元「日本の自然環境」は、単元の学習の初めに位置づけられている。単元のねらいを達成するため、わが国の地域的特色を自然環境の面から追究し、理解させることを主なねらいとしている。

【単元の構成】

No.	小単元名	時間	学 習 内 容
1	日本の自然環境	6	世界的視野から見て、日本は環太平洋造山帯に属し大地の動きが活発であること、温帯の島国、山国で降水量が多く、緑におおわれた国であること、自然災害が発生しやすく防災対策が大切であることといった特色を理解させるとともに、国内では地形、気候などにおいて地域差がみられることを大観させる。
2	日本の人々の暮らし	4	世界的視野から見て、日本においては比較的ものの豊かな中で人々が暮らしていること、また、近代化や国際化の進展などにより伝統的な生活・文化は変容していること、外国から入ってきた生活・文化は日本の環境条件に対応させて取り入れてきたことといった特色を理解させるとともに、国内では生活・文化の地域による差異が次第になくなりつつあるが、一方で各地に特色ある生活・文化がみられることを大観させる。
3	世界と日本の人口	4	世界的視野から見て、日本は人口が多く、また、人口密度が高く、平均寿命が長い国であること、少子化、高齢化に伴う課題を抱えていることといった特色を理解させるとともに、国内では平野部に多くの人口が集中し、過密・過疎地域が見られることを大観させる。
4	世界と日本の産業・資源	6	世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源に恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。
5	広がる地域間の結びつき	4	世界的視野から見て、日本は国際間の交通・通信網の整備が進んでいること、世界の各地と強く結びついていること、結びつきの深さや内容は相手の国や地域によって特色がみられることを理解させるとともに、国内でも交通・通信網の整備が進んでいること、各地の時間的な距離や位置の関係が大きく変化しつつあること、人や物資の移動には地域的特色がみられること、各地域の特色は他地域との結びつきの影響を受けながら変化していることを大観させる。

生徒の実態

生徒は、小学校第5学年で日本の地形や気候の概要について学んでいる。西には北上高地を望み、宮古湾に面した、自然豊かな土地に暮らしている生徒にとって、日本が四季の変化に富む自然豊かな島国であることについては実感として理解していると思われる。しかし、生徒たちの知識の範囲は狭く、「世界的な視野から日本を一つの地域として追究することで自然の特色をとらえたり、地形や気候の特色と自然災害を結びつけ、その防災対策について考えたりできる」ところまでは高まっていないと思われる。

「リアス式海岸」などの用語は多くの生徒が知っているが、なかには、本単元の学習を進めるにあたって必要な基本的な地名も定着していない生徒もおり支援が必要と思われる。

5 単元の指導にあたって

本単元「さまざまな面から見た日本」は、前回の「世界の国々の調査」で学習した、国家規模の地域的特色をとらえる5つの視点から構成されている。本小単元は、日本の自然環境を視点としている。「世界の国々の調査」で取り上げたアメリカ、マレーシア、フランスなどの自然環境と比較しながら、日本の地域的特色と日本国内の地域的特色を理解させるよう指導を進めたい。なお、統計資料や主題図の読み取りなど、作業的な学習をしながら基礎的な知識が定着するように進めたい。

本小単元の最後には、自然災害について扱う。自然災害の種類については、地形や気候と大きく関わっているため、地形の学習と気候の学習のところで、そのつど学習を進めるようにし、防災対策についての話し合いに重点を置く。身近な災害を例に、自然災害の防災対策を考える視点を明らかにできるように指導したい。

一斉学習では、発言が特定の生徒に偏る傾向がある。小集団を組み、効果的に指導を進めたい。また、基本的な地名やその位置等については、白地図を使った作業を通して確実に定着させるようにしたい。

6 単元の指導目標

世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色を追究し、我が国の国土的特色を様々な面から大観させるとともに、地域の規模に応じて、また、地域間を比較し関連付けて、地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けさせる。

7 単元の指導目標に関する評価の観点とその規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用 of 技能・表現	社会的事象についての知識・理解
日本の国土の特色に対する関心を高め、それを世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面から意欲的に追究し、我が国の国土の特色をとらえようとしている。	日本の国土の特色を世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面から追究するとともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を考察している。	世界や日本の地図や統計その他の資料を収集し、様々な面から日本の国土の特色をとらえるための有用な情報を適切に選択して活用するとともに、我が国の国土の特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面からとらえた日本の国土の特色とともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を理解し、それらの知識を身に付けている。

8 学習内容毎の評価規準並びに判断基準 ※本小単元のみ掲載した(2~5は省略)

学習内容 ()は累計時間	評価規準 上段は観点、()は評価方法	判断基準		
1 日本 の 自然 環境	①変化に富む 世界の地形 (1)	関	A	海底の地形についても調べようとしたり、記入した山脈にある山について、高さのランクを表にまとめたりもしている。
			B	主な山脈とあわせて、アルプス・ヒマラヤ造山帯と環太平洋造山帯を白地図に記入し、地盤が不安定な地域をとらえようとしている。
	②日本の地形 (2)	思	A	地形の特色から、災害の起こりやすい地域の分布を示したり、世界の地形と日本の地形の違いを図で説明したりしている。
			B	日本のおもな山脈の高さや河川の長さ、幅を調べて世界のそれと比較することにより、日本の地形の特色をつかみ、日本の災害の特色と関連させ考察している。
	③世界から見た 日本の気候 (3、4、5)	知	A	日本の気候に季節風・梅雨・台風などが地域的特色をもたらししていることも記述している。
			B	世界の気候が5つの気候帯に分けられ、それらが赤道をはさんで規則的に分布していることと、その中で、日本は温帯にある国であることを記述できている。
		技	A	植生の分布や海流の分布などにも触れた記述が見られる。
			B	いくつかの雨温図を描いて、それらが日本のどの地域の特色を表すのか、指摘できている。
	④自然災害と 人々の暮らし ※本時 (6)	思	A	防災のポイントをおさえ、他の自然災害への対処法についても考えようとする記述が見られる。
			B	これまで行われてきた県・市による津波対策について調べ、記述できるとともに、地域・家族・個人のレベルでの津波対策について考えを発表できている。

